

「明日香・大原の里」

・明日香・大原の里は旧飛鳥村東部に位置する今の奈良県明日香村小原おおはらだといわれ、万葉集には次の歌が詠われている。

「志貴皇子しきのみこの御歌一首」

1) 大原の このいち柴しばの いつしかと

我が思おもふ妹いもに 今夜逢こよひえるかも

卷四―五―三

(解説)

・大原のこの茂りに茂ったいち柴ではないが、いつ逢えるか早く逢いたいと思っていたあなたに今夜という今夜は巡りあったね。

○いち柴の「いち」とは植物に冠してその繁茂をほめることを言う。「柴」は山野や道端などの日あたりのよい土地にはえる多年草。

○題詞の「志貴皇子」は第三十八代天皇・天智天皇の第七皇子。

2) 大原の 古ふるりにし郷さとに 妹いもを置おきて

われ寝いねかねつ 夢いめにみえこそ

(解説)

・古びた大原の里に妻を置いて来て、私は寝ることができない。
せめて夢の中で見えて欲しい。

・明日香宮より藤原京に遷った後、古き都のことを詠った歌である。

(参考文献) 新潮日本古典集成「万葉集」・日本古典文学大系「万葉集」等

(写生地) 古い歴史を有し飛鳥大仏で有名な飛鳥寺(現安居院)から東南

あすかにいますじんじや

へ約2キロ先に飛鳥坐神社がある。この神社の右横の登り坂を上ると、

視界が開け里山の風景が広がる。かつての「大原」今の明日香村・小原の
集落である。この集落風景を西側下から描く。(池田杏花)

